



野鳥の 不思議解明 最前線 #110 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2014

脂身を食べるアカゲラ。彼らの翌春の繁殖成績は下がっている？ 撮影●守屋年史

冬の給餌は翌春の繁殖成績に影響する？

～ 脂身の給餌で翌春のヒナの体重が軽くなったアオガラ ～

12月になりました。今年も北海道でのワシの調査に始まり、奈良や宮崎での森林の鳥の調査、各地でのモニタリング調査の参加者との交流会と、各地を旅しました。おかげで、ぼくのカツ井写真のコレクションもずいぶんと増え、今年の増加数は52。週に1度以上食べていた計算になりますね。多いような少ないような…。「それだけ脂身の食べてて、よく身体壊さないね」としばしば言われますが、今のところ健康そのものです。でも、鳥はどうなのでしょう？ 人の感覚で類推するのは、そもそも間違いですが、エサ台で人気の脂身などは「あんなのだけ食べていて大丈夫なんだろうか？」と気になりますよね。そんな影響について研究した論文が、BTOの年報に掲載されていたので紹介したいと思います。

この研究をしたのはイギリスのPlummerさんたちです。広葉樹の森に餌台と巣箱を設置して、給餌を受けた翌春のアオガラ *Cyanistes caeruleus* の繁殖成績がどうなるかを調べました。給餌は脂身を与える餌台と、栄養を考えて、脂身とともにビタミンEも与えたものをつくり、それらを給餌しなかった個体と比較しました。

すると、給餌を受けたアオガラはビタミンの有無を問わず、給餌を受けていなかったものと比べて、巣立ち成功率、ヒナの体重ともに少なくなることがわかりました。ただし、繁殖開始時期や一腹卵数には差はありませんでした。給餌場に来ない「自活できる」アオガラの方が、質の高い鳥で、給餌能力が

高く、このような結果になる可能性も考えられますが、少なくとも給餌回数には差はなく、その可能性は低そうです。

では、なぜ繁殖成績やヒナの体重の減少につながったのでしょうか。脂身の給餌が卵黄とカロテノイドの減少につながることが示されており、これが成績や雛の体重の減少につながったのかもしれませんが。ただし、ピーナッツを給餌した実験では、繁殖開始時期や繁殖成績が向上したという研究もあり (Robb et al. 2008) 給餌の影響は、給餌物やその栄養条件などにより変化するのかもしれませんが。

給餌には冬期の生存率を上げる効果もあるでしょうし、こうした悪影響もありその功罪は単純ではありませんが、悪影響についても考慮して、給餌の可否について考える必要があるのでしょうかね。

ところで、今日は大阪にいます。これから福井まで足を延ばして、ソースかつ井とボルガライスを楽しんで帰ろうと思います。脂身は、ぼくの繁殖成績にも影響を及ぼすのかもしれませんが…。予定のない未来よりは今を生きようと思います。

紹介した論文

- Plummer KE, Bearhop S, Leech DI Chamberlain DE & Blount JD (2013) Winter food provisioning reduces future breeding performance in a wild bird. *Scientific Reports* 3: 2002.
- Plummer KE, Bearhop S, Leech DI Chamberlain DE & Blount JD (2013) Fat provisioning in winter impairs egg production during the following spring: a landscape-scale study of blue tits. *J Anim Ecol* 673–682.